

番組目録

平成15年1月5日20時よりNHK総合テレビにおいて放映されたNHK大河ドラマ番組「武蔵 MUSASHI」の第1回放映分・タイトル「俺は強い！」
(再放送：NHK総合テレビ平成15年1月11日13時5分～、衛星第2放送平成15年1月5日22時～、ハイビジョン放送平成15年1月10日22時55分～)

脚 本 目 録

平成15年1月5日20時よりNHK総合テレビにおいて放映されたNHK大河ドラマ番組「武蔵 MUSASHI」の第1回放映分・タイトル「俺は強い！」
(再放送：NHK総合テレビ平成15年1月11日13時5分～、衛星第2放送平成15年1月5日22時～、ハイビジョン放送平成15年1月10日22時55分～)の脚本

対比目録 1

被告脚本 (「武蔵 MUSASHI」)		原告脚本 (「七人の侍」)	
シーン	脚本	シーン	脚本
1 4	<p>④ ①</p> <p>二人、身を低くして、熊笹がざわざわと揺れて動く。二人、身構える。</p> <p>熊笹、音を立てて揺れる。男がひとり飛び出してくる。武蔵と又八と顔があつて、慌てて逃げていく男(朱美)。</p> <p>戦場から略奪した獲物を抱えている。逃げる朱美。武蔵、追う。朱美に飛びつく。城み合ふ二人。武蔵が驚いたように跳ね起きる。朱美、逃げていく。又八が追いつく。</p> <p>と、朱美に触れた手を見ている。</p> <p>又八、なぜ逃がした！ 武蔵、女だった、あいつ……</p> <p>1-12</p>	74	<p>林の中 花を折っていた勝四郎、裏の群衆を見つけて奥へそわれ。裏の花の中に寝て、胸一杯量の香りを吸い込む。見上げた雑木の枝には小鳥が来ている。勝四郎、その小鳥の姿を眼で追っている。その時、ガサガサ音を鳴らして、近づいて来る足音が聞える。勝四郎、飛び起きる。</p> <p>「興味深そうに身構える。」 「逆襲のかけから、わらびを両手にかかえた志乃が出て来て、勝四郎を見て立ちすくむ。志乃は男の野良猫を捕まらせて、髪も男のように結っている。」 勝四郎「志乃をジロジロ見て」「なんだ、貴様、この村の者か？」 志乃「うなずく、お。勝四郎(怒る)」「この村のものなら何故竹槍を持たぬ！」 志乃「困っている。」 勝四郎「おいッ！今はどんな時だ。いい若い者がわらびなを取っている時か」と、手を振り廻して、自分の手に持っている花のやり場に困る。</p> <p>そして、ますますカッとなる。 勝四郎「来いッ！またやあ！来んか！」 志乃「困りはして、わらびを投げ出して逃げる。」 勝四郎(追う)「来いッ！」 志乃は、なかなか敵意である。 勝四郎にはなかなかつかまらない。 勝四郎、ますますむきになって追い廻す。しかし、なんといつても志乃は女だ。</p> <p>結局、木の根につまずいて倒れたところを、勝四郎に捕えられ。</p> <p>勝四郎「こいつ！」 志乃、懸命にあはれる。 勝四郎、その胸を押えてハッと手を引く。びっくりして志乃を見つめる。 志乃は、二回飛びのいて眼をそらしたまま、はだけた胸をかきかす。 勝四郎も眼をそらす。 そして、二人ともそのまま荒い息を吐きながら熱っている。その二人を取巻いて、一面の蒲公英が静かに揺れている。</p>
2及び4 35	<p>⑤</p> <p>武蔵がいます。 お甲が、同じように戸の障で提燈を構えている。 小屋の表の一本道を、朱美が熊笹を連れて帰ってくるのが見える。 又八である。 又八、朱美と戯れながら小屋の表までくる。 武蔵、顔を出す。 と、入って「ようとする。」 武蔵、懸命に合図をする。 戸の障に隠れているものがある。 又八、合図に気づく。 刀に手を掛け、用心しながら小屋に踏み込む。 お甲が、提燈を振り下ろす。 又八、刀の鞘でカッコよく受けとめる。</p> <p>武蔵、又やん！ 又八、タケソウ！おれはやつぱりお前と京に出る。</p> <p>1-57</p>	32	<p>⑥ 木賃宿・中 表を覗いていた勝四郎が振り返る。 「参ります」 上りかまらに腰かけた助兵衛。</p> <p>「提竹刀を持って居ったな？」 勝四郎「はい。」 助兵衛「それととれ」 勝四郎「は？」 助兵衛「竹刀をとったら、入口に身をかくして、上段に構えろ。」 勝四郎「あの浪人が入って来たなら、思い切つて打込め！」 助兵衛「早くせんか……遠慮はいらぬ存分に打込め！」 勝四郎、仕方なく入口にかくれて、提竹刀を上段に構える。 助兵衛は、その入口をジッと覗く。 部屋の隅で、与平がどうなることかとハラハラして居る。 足音が近づく。 入口に浪人が姿を現わす。 無造作にズイッと入って来る。 「エイッ！」 勝四郎が打降す提竹刀。 瞬間、その提竹刀がガッという音と共に弾き飛ばされる。 咄囃に浪人が鉄腕で打つたのである。 「慮外なッ！」</p> <p>浪人は、勝四郎と助兵衛に對して、油断なく構えながら叫び返す。 「御見事！」 助兵衛は、そう言いながら立ち上る。 「いや、失礼つかまつた。拙者は鳥田助兵衛と申す者。裏は仔細あつて遠慮の士を求めて居る。しかも、火急の事だな、御無礼」と、ペコリと頭を下げる。</p> <p>助兵衛「早くせんか……遠慮はいらぬ存分に打込め！」と、またも次のように叫ぶ。 表を覗いていた勝四郎、助兵衛の「勝四郎」という声に振り返る。 四郎の前の助兵衛、鞘を一本とって、素腰りをして、勝四郎にさし出す。 助兵衛「入口に身をかくして、上段に構えろ。」 勝四郎「？」 助兵衛「あの浪人が入って来たなら、思い切つて打込め！」 勝四郎「？」 戸の障の裏、振り向いて、「めえりませ。」 助兵衛「はれ……遠慮はいらぬ、存分に打込め！」 与平、怖そうに扉へ逃げる。</p> <p>1-56</p>

シーン	脚本	シーン	脚本
3	<p>34</p> <p>道</p> <p>朱実が、また、道行く侍を物色している。</p>	10	<p>10 街道・11 黙り込んで四人が行く。 浪人が一人来る。 四人、思わずジロジロ見る。 浪人、要な顔をして、ギョロッと脱む。 四人、小さくなってすれ違う。 そして、しばらく行って振り返る。 浪人はさっさと遠ざかって行く。 万道、残念そうに見送ってる利吉を見ると、馬鹿にしながら顔をしかめて歩き出す。 「行くへえ」 (WIPE)</p> <p>* 11 10街道、この場面、次のように変更、人通りの多い往來を待たず、強そうに物色している利吉、万道、与平、夜助の四人、利吉、一人の侍に目をつけると、意を決して駆け出す。 (WIPE)</p>
5	<p>41</p> <p>小屋</p> <p>戸の隙に隠れた追松が、真剣を放く。 お甲も武蔵も又八も驚く。 追松のすることは何か荒々しい。 朱実と半兵衛が来る。 半兵衛、入ろうとして、ふと足を止める。 そのままじっとしている。</p> <p>お甲 そんなことしなくても…… 追松 真剣をかわせないような奴を雇ってもしようがない。</p> <p>半兵衛 (冷静に) 真剣で勝負をするというのは、何か理由があるのかな。</p>	38	<p>38 本質宿・中 次の行の浪人のせりふを変更、次のように追加された。 浪人「ハハハ……脚元横を」 半兵衛「ウム、腰を叩いて立上る……いや、御無礼、御無礼」 (WIPE)</p> <p>39 本質宿・中 浪人のせりふを修正、次のように追加された。 「離方じゃ、冗談が過ぎますぞ」 (WIPE)</p>

シーン	脚本	シーン	脚本
6		24	<p>24 中庭</p> <p>「それ」 僧形の侍は、握り飯を一つ投げる。 そして、少し間を置いて、もう一つ投げる。 「それ」 次の瞬間、僧形の侍の足はパッと土を蹴って、納屋の 中に飛び込んでいる。 一同、ハッと息を呑む。 納屋の中で、何か倒れる音と、グンと壁に響くような 気合と、そして息のつまった短い呻き声が続いて起る。 入口の戸がダツと中から倒れて、それと一緒に盗人が 飛び出して来る。 門口の人垣が本能的に少し逃げる。 盗人は泳ぐように、桶に腰かけた侍の少し前までのめ って来ると、そこで妙に間の抜けた恰好で構え立ちにな る。 それが、何故だかソツとさせる。 夫婦以外は一同その盗人に眼を奪われる。 「坊や!」 母親が絶叫して走る。 納屋の入口から、僧形の侍が子供を抱いて出て来る。 子供を母親に渡すと、右手に持っていた血刀をポンと 捨てる。 それと、殆んど前後して、盗人が枯木のように倒れる。</p>
7	<p>43</p> <p>半兵衛が、月明りの道を見ている。 屋敷の前を、まっすぐに道が走っ ている。 武蔵が出てくさ。</p> <p>武蔵 野盜はこの道に来るんですか? 半兵衛 らしいな。 武蔵 ここに橋を作れば? 半兵衛 そんなものを作れば、いつもと違うと思われ る。昔段と変わらぬと思わせておくのが、 一番だ。</p>	71	<p>71 村の西</p> <p>村からの坂道を、百姓達が十人程駆け降りて来る。切 口の生々しい材木や、東にした藤葉を拍いでフクフク している。 七郎次が、その横を、同じように材木をかついで走っ ている。 村はずれまで来る。 七郎次「よしッ!」 みんなかっついていたものを投げ出してブツ倒れる。 七郎次、肩で息をしながら、それを見廻して、 「いいかッ!」 腹ほど走るものはないぜ! 攻むる時も退 く時も……走る! 戦に出て走れなくなった時は死ぬ時 だ! 完全にへたばった万進に近寄る。 「どうしたッ、しつかりしろッ!」 万進 ゼイゼイいう息の下から、 「無理だア……僕等ア御腹だ……」 七郎次「なにッ! 俺はな、一月というものの草の根ばかり 食った! それから十里走った!」 あの溫和しい七郎次とは思えぬ程きびしい声である。 万進、しゃっきりとなる。 勘兵衛、それを横に見ながら、村の道をスタスタ兩へ もどる。 五郎兵衛「這って!」 「ここは見んのか? ……ここを閉けッ 放しじゃが!」 勘兵衛「七郎次が心構でおる!」 五郎兵衛「?」 勘兵衛「あの丸木を見る……馬止めの圈をつくる気じゃ!」 五郎兵衛「成程、古女房じゃな!」 勘兵衛「ハハハハ!」</p>

被告脚本 (「武蔵 MUSASHI」) | 原告脚本 (「七人の侍」)

シーン | 脚本 | シーン | 脚本

8 51

51 道

十数頭の馬が疾走してくる。
 辻風典馬が、先頭を切つて走る。
 野盗たちの馬が疾走してくる。

1 - 79

192

水神の森
 馬蹄の音 近い——
 地響が伝つて来る。
 五郎兵衛(明)「いいかッ! 一騎通したら連へ飛び出して
 槍をくれ!」
 久蔵「先ず馬を交けッ!」
 「あゝ……来た!」
 誰かの俣え声。

93 裏山の道
 木の間からバツと先頭の一騎が飛び出す……続いで二
 騎……三騎……四騎……
 先頭の鹿面、刀を振り廻しながら、黙めいた喚声を上
 げて急速に近づく。

9 43

55 内庭

野盗が馬から落ちる。
 狭い庭が、馬と人で大混乱になる。
 半兵衛と武蔵が、さらに射る。
 野盗たち、何人か馬から落ちる。
 追松が飛び出してきて、別人のよ
 うに生き生きと野盗に襲いかかる。
 野盗を斬る。
 又八も逃げ腰で闘う。
 半兵衛と武蔵、射る。
 と、野盗たち出ていく。
 追松、追いがつて叩き斬る。
 武蔵、大きな息をしている。
 又八も荒い息をしている。
 追松が、半兵衛のそばに来る。

天馬 引け!……引け!
 追松 「さうは、(口) 引いたが、(口) だ。

1 - 83

197 198

94 七人の侍
 水神の森
 「開けッ! 開けッ!」
 五郎兵衛、後を見て叫ぶ。
 百姓達、両側へ引く。
 野武士達、その間隙をねらつて、ダツと逆落しに来る
 が、下から逃げ上つて来た一騎と鉢合せをして混乱す
 る。
 その混乱に乗じて、久蔵と五郎兵衛、斬つてかかる。
 百姓達も、ワッ!! と間の声を上げて、突つかかる。
 二、三騎、斬られたり突かれたりして、徒歩で逃げる。
 「引けッ! 引けッ!」
 野武士達、ほうほうの聲で、坂道を逃げ上る。
 一騎だけ、尻を突かれた馬が、後足を蹴り上げながら
 坂道を村の方へ素ッ飛び。

95 村の辻
 寄つてたかつて突きまわられている二騎。
 仲間が助兵衛に斬り落とされるのを見ると、あとの一騎、
 一般に逃げもどる。

シーン 10 53

脚本

64 内庭(夜)

雨の中の死闘がつづく。
武蔵、斬る。
必死で斬る。
又八も必死で闘う。
と、必死で闘う。
雨の中の死闘がつづく。
足を滑らせて、危うく斬られそうになる又八。
武蔵が斬ってのける。
雨が降る。

武蔵 死ぬな、又八ん！……死ぬな！……どんなことをしても、生きていようと思えん！！

1 - 98

武蔵も足が滑る。
野盗も滑る。
雨の中で死闘がつづく。
武蔵、必死で闘う。
又八も、必死で闘う。
野盗を斬る武蔵。
斬りまくる。
ひとり、また、ひとり。
仕風典馬、ひとりになる。
武蔵と典馬、向かい合う。
雨が激しい。
武蔵、剣を絞るように握りしめて、典馬の振りおろす刀に、力一杯、刃を叩きつける。
武蔵と典馬、斬り結ぶ。
典馬を叩き斬る武蔵。

典馬 興奮して、雨の中で絶叫する。
又八、唖然と見ている。
雨の中で、叫び声を上げる武蔵。

武蔵 おれは強い！……又八ん、おれは強い！
武蔵 おれは強い！！

1 - 99

シーン 11

シーン 260

脚本

260 裏山の道
降りしきる雨の中を、十三騎一団となった真黒いかたまりが、ツツツツ……急速に大きくなりながら近づいてくる。

261 村の辻
身構えている七郎次、超。身構えている菊千代の超。雨の中から馬蹄の地響きが聞え出す。菊千代、後に突立てた刀を一つひっこ抜く。
水神の森の前
一団となって通り過ぎる馬、馬、馬。ワッ！！

262 水神の森
野武士の一団、村の辻の手勢を見て、手柄をしばり急速に馬の歩度を抑える。
ワッ！！
と、それに追い打ちをかける勘兵衛連。野武士の半数、泥を跳ねあげ手早く馬を返し出す。その中へ真先に走りこんだ久蔵、一人を斬る。続いて勘兵衛も一人斬る。

263 勘兵衛連
菊千代、七郎次、つづいて百姓連、飛び出す。

264 村の辻
雨側の家の軒先に待機している菊千代の超と七郎次の超。菊千代、例の落武者狩りの獲物をついで来る。それをみんなの前に黙って投げ出すと、自分は刀だけ遣り出して、みんなから放いて自分の後に突き立てる。

265 村の辻
菊千代が荒れ狂っている。刀が折れると見るや、腰の刀を抜く。その刀も刃こぼれして折れぬと見るや、突っ立った彼身をひっこぬいて飛びかかる。七郎次は槍で突くより殴っている。殴り落した奴は百姓連にまかせて、また次の奴にくりかかる。

シーン 258 265

258 村の辻
雨側の家の軒先に待機している菊千代の超と七郎次の超。菊千代、例の落武者狩りの獲物をついで来る。それをみんなの前に黙って投げ出すと、自分は刀だけ遣り出して、みんなから放いて自分の後に突き立てる。

265 村の辻
菊千代が荒れ狂っている。刀が折れると見るや、腰の刀を抜く。その刀も刃こぼれして折れぬと見るや、突っ立った彼身をひっこぬいて飛びかかる。七郎次は槍で突くより殴っている。殴り落した奴は百姓連にまかせて、また次の奴にくりかかる。

対 比 目 録 2

被告番組（「武蔵 MUSASHI」）			原告映画（「七人の侍」）			
分数 (注1)	内容	チャプター (注2)	シーン (注3)	分数 (注4)	内容	
1 7:25-8:30	武蔵が朱実を追いかけつかまえようとするが胸に触れて女であることがわかり狼狽する。	1-10-63	74	0:48~2:37	勝四郎が志乃を追いかけつかまえようとするが胸に触れて女であることがわかり狼狽する。	
2 29:15	お甲が棒で侍に打ちかかりテストする。	1-4-24	32	0:11~2:00	勝四郎が薪で(脚本の袋竹刀が演出で薪に変えられている)侍に打ちかかりテストする。	
3 29:40-29:45	村外れの道を侍が何人か通り過ぎる。	1-2-7	10	0:00~0:44	人通りの多い往来を侍が何人も通り過ぎる。この部分は演出で変えられている。	
4 30:26	又八が脇差の鞘で棒を払う。	1-4-24	32	1:01	浪人が刀の鞘で薪を払う。この部分は演出で鉄扇が刀の鞘に変えられている。	
5 31:30	半兵衛、気配を察して立ち止まり、「真剣で勝負しようというのは何か訳でもあるのかな」という。	1-5-28	38	0:36~0:44	五郎兵衛、気配を察して立ち止まり、「はははは…ご冗談を」と言う。この部分演出で台詞が変更された。	
6 31:58-32:04	半兵衛、朱実の腰の鈴をひきちぎりそれを投げて追松が刀で払う隙をついて取り押さえる。	1-3-16	24	1:02~1:37	子供を人質に取っている盗賊に勘兵衛はにぎり飯を投げ、その隙をついて盗賊を切る。	
7 34:40-34:48	武蔵が家の前に柵を作ることを提案するが、半兵衛は「いつもと違うと思われる」と言って反対する。	1-10-56	71	0:45~0:52	七郎次の指揮の下百姓達が丸木で柵を作っている。	
8 41:11-41:37	野武士の集団が刀を振り回しながら喚声をあげて押し寄せる。	2-12-62	193	0:00	野武士の集団が刀を振り回しながら喚声をあげて押し寄せる。	
9 42:30-43:20	武蔵達が騎乗の野武士達に刀や槍で切りかかる。	2-12-66,67	197,198	チャプター66,67 全体	勘兵衛達が騎乗の野武士に刀や槍で切りかかる。	
10 53:05-56:30	豪雨の中の戦い。	2-20-93 ~2-21-96	260~277	チャプター93,94,95 全体とチャプター 96の0:00~4:18	豪雨の中の戦い。	
11 54:08-54:24	武蔵、地面に突き立てた拔身を抜く。	2-19-91	258	0:29~0:46	菊千代、武者狩りの獲物の中から刀を選び出して鞘を抜いて地面に突き立てる。	
		2-20-95	265	0:20~0:25	刀が折れた菊千代、地面に突き立てた拔身を抜く。	

(注1) 被告番組を録画したテープの経過分数

(注2) 原告映画のDVDのチャプター等の番号(例:1-10-63は前編10(防備の準備)のチャプター63)

(注3) 原告脚本及び原告映画のDVDのシーン番号

(注4) 原告映画のDVDのチャプターの経過分数